

「馬城かわら版」の掲載を終えて

高普第 13 回卒 村山 正之^(※1)

2020 年 1 月、新型コロナウイルスが日本でも初確認され、クルーズ船での集団感染、その脅威が報道されるようになっていました。その最中の 2020 年 2 月、馬城会の理事会が開かれました。

その中で、馬城会活性化のために何が必要かの意見の中で、ネットでの広報などもどうかという提案がありました。

そこで早速、独断で「馬城瓦版」（後に「馬城かわら版」と称して書き始めました。第 1 号は、2 月 17 日付けでした。それを相馬高校のホームページの「卒業生の皆様へ」の中に載せて頂くことができました。これも相馬高校の校長先生はじめ先生方のご好意によるものです。

特に、馬城会事務局、今野直樹先生には、毎回、文・文字のチェック、校正、メールでのやりとり等膨大な時間と労力を提供して頂き、感謝、感謝です。

当初、馬城会入会式や卒業式、馬城会員関連の新聞記事を取り上げる中で、3 月に、日弁連次期会長に荒 中氏（昭和 48 年、理第 2 回卒）の嬉しいニュースが特に印象に残っています。

その後、明治の創立期から大正そして戦時体制下、学徒動員まで、旧制中学校や生徒たちの様子が丁寧に記述してある記念誌「相中相高八十年」と「相中相高百年史」から選択し、それを 60 号分位、転記してみました。

続いて、記念誌「相中相高八十年」、「創立 90 周年記念誌・紅の旗」、「相中相高百年史」、「創立 110 周年記念誌・紅の旗」、「創立 120 周年記念誌・乗り越えて その先へ」の 5 冊に載っている会員の『思い出の記』や『想い出の記』等を転記・転載しました。

明治、大正、昭和から平成までに卒業し『思い出の記』等に原稿を寄せられた同窓生は、延べ 160 名を超えていました。それぞれの方々の文章から、人としての生き方へ大切な示唆を受けました。

また、相馬中学や相馬高校での学生生活は、それぞれの時代の様相に大きく支配されてきたことを、今更ながら驚くほど強く感じ取ることができました。

現在も、敵という名の下に戦いを正当化し、それに同調してしまう人間の愚かさを痛感しています。敵をつくる人間に国をまかせると、名もない罪のない人々の命が犠牲になることは、相中・相高の記念誌からも見えてきました。

近年、10 年毎に発行し続けている馬城会の記念誌は、それぞれが充実した記録史になっています。これらが続けて来た先輩たち、相高の先生方に深く敬意と感謝を申し上げたいと思います。

「馬城かわら版」はそのお陰で生まれ、ここに終えることができました。

(※1) 駒ヶ嶺出身。昭和 36 (1961) 年卒。前馬城会長。